

# 美術部会 研究の構想（案）

令和7年度～9年度

## I 研究主題

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための学習活動はどうあればよいか。  
—資質・能力を育成するための〔共通事項〕の指導の在り方—

## II 主題設定の趣旨

令和4年度からの3年間は学習者用端末の環境が整い、ICTを効果的に用いた学習活動の充実を目的として研究を行った。初年度は「表現」における活用として、端末を用いて制作過程での技法を分かりやすく提示し、表現活動の充実を図った。令和5年度は、参考作品等をねらいに応じて効果的に提示するなど、「鑑賞」における活用を行った。令和6年度はICTを評価にどのように取り入れるかを研究し、デジタルポートフォリオや相互鑑賞に生かした。

学習指導要領〔共通事項〕の指導事項は、「A表現」及び「B鑑賞」の学習において、共通に必要な資質・能力であり、造形的な視点を豊かにするために必要な知識として位置付けられている。そして、単に新たな事柄として知ることや言葉を暗記することに終始するのではなく、表現したり鑑賞したりする喜びにつながっていくことが重要であるとされている。

そこで、令和7年度からの3年間は、これまでの研究を踏まえ、美術科として育成すべき資質・能力について、さらに研究を深めたい。表現活動及び鑑賞活動の指導過程の基本に立ち返り、形や色彩、材料、光等の効果を生かすとはどういうことか、造形的な特徴を基にイメージや作風を捉えるとはどういうことかを、生徒が理解しやすい多様な実践を通して、改めて研究していきたい。AIや新しいデジタルツールの登場により、新たな表現方法が一般化した。幅広い表現が可能となったと同時に、著作権等への配慮が必要になり、新たな課題も生まれている。その上で表現活動や鑑賞活動を通して、造形的なよさや美しさに触れるだけでなく、美術や美術文化の社会的意義まで踏み込んで考えさせたい。

美術科としての資質・能力を育成していく中で、生徒の実態に合わせた適切な題材や指導方法を吟味し、学習過程や指導方法の研究を進めたい。

## III 研究のねらいと内容

### 1 研究のねらい

美術科としての資質・能力を育成するために、〔共通事項〕を踏まえた指導過程や題材及び評価について研究する。

### 2 研究内容

- (1) 1年目 〔共通事項〕を踏まえた指導方法の研究
  - ・〔共通事項〕を身に付けるための表現活動や鑑賞活動の工夫
  - ・創造的で豊かな表現を可能にする知識及び技能の習得のための指導方法の工夫
  - ・思考力、判断力、表現力等を高める指導方法の工夫
- (2) 2年目 〔共通事項〕を踏まえた題材の研究
  - ・〔共通事項〕を効果的に身に付けるための題材の工夫
  - ・生徒が主題をもち、主題を深めることのできる題材の工夫
  - ・多様な表現方法を取り入れることができる題材の工夫
- (3) 3年目 〔共通事項〕を踏まえ、3年間を見通したカリキュラムの研究
  - ・小中連携を踏まえた指導計画の研究
  - ・3年間のカリキュラムにおける〔共通事項〕の位置付けの研究
  - ・教科等横断的な視点を取り入れた指導計画の研究

# 美術部会 令和8年度研究計画（案）

## I 研究主題

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための学習活動はどうあればよいか。

—資質・能力を育成するための〔共通事項〕の指導の在り方—

## II 主題設定の趣旨

学習者用端末の環境整備に伴い、令和4年度から6年度までの3年間は、「美術科の特質や学習過程を踏まえたICTの効果的な活用」について、「A表現」「B鑑賞」「評価」の3つの観点から研究を行ってきた。その中で、ねらいに応じた参考作品の提示や発想・構想も含めた制作過程の記録、表現活動や鑑賞活動の充実、デジタルポートフォリオや相互評価を生かした評価の工夫等、美術科におけるICTの様々な活用方法を見いだすことができた。同時に、今まで積み上げてきた従来の指導方法とICTを活用した指導方法を組み合わせた、より効果的な指導の在り方を再考する必要もある。

そこで、令和7年度からの3か年計画では、「造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力の育成」を目指して、〔共通事項〕の指導について、さらに研究を進める。具体的には、「指導方法の工夫」「題材の工夫」「3年間のカリキュラムの工夫」という3段階で研究を進め、〔共通事項〕を踏まえた授業づくりを行っていく。

1年目は、〔共通事項〕を位置付けた指導方法の工夫を研究内容とした授業実践を行った。その成果として、発想・構想の段階において、アイディアスケッチの相互鑑賞の時間を設け、〔共通事項〕の視点を示して意見交換をさせることで、構想を深めるとともに、造形的な見方・考え方を働かせることができた。また、制作の場面においては、参考作品や多様な用具の使い方等について、ICTを活用して効果的に提示することで、造形的な視点を豊かにし、表現意欲を高めることができた。このように、〔共通事項〕に示されている内容を、実感を伴いながら理解できるように学習の充実を図り、表現活動や鑑賞活動を通して生きて働くよう、授業で繰り返し指導する必要がある。

そこで、2年目に当たる本年度は、1年目の研究を基に、〔共通事項〕を位置付けた題材の工夫について、授業実践を通して研究を行う。題材の設定に当たっては、〔共通事項〕を実感を伴いながら理解できる題材か、指導過程のどこに、どのような〔共通事項〕の内容を位置付けるかについて研究を深めたい。その際、各題材において生徒が主題をもつことが重要である。その上で生徒が主題を深めるために、〔共通事項〕に示されている内容について理解し、それらを生かして活動に取り組むことが求められる。そのため、表現活動や鑑賞活動を相互に関連させ、生徒が〔共通事項〕を確実に身に付けられる題材となるような工夫をすることが必要である。〔共通事項〕を身に付けられるような場면을題材の中に効果的に位置付けたり、生徒が多様な表現方法の中から自ら選択し、取り入れたりすることで、主題に照らして構想を深めるよう工夫する。

また、3年目の研究を見据え、小学校での図画工作科や他教科での既習事項を生かした題材や、生徒の発達段階を踏まえた指導内容、美術を通して社会と関わる活動等を取り入れるなど、生徒の3年間の学びを見通した題材の在り方についても、研究を進めたい。

## III 研究内容とその視点

主題の解明を図るために、研究主題と研究内容を軸に、授業研究と研究発表を通して、「令和の日本型学校教育」の理念に則し、以下の方策で研究を行う。

### 1 〔共通事項〕を踏まえた指導方法の研究

- (1) 〔共通事項〕を身に付けるための表現活動や鑑賞活動を工夫する。
  - ・形や色彩、材料、光等の性質や、それらが感情にもたらす効果を理解する活動
  - ・造形的な特徴等を基に、全体のイメージや作風等で捉えることを理解する活動
  - ・〔共通事項〕を踏まえ、様々な言語活動を取り入れた表現活動や鑑賞活動
- (2) 創造的で豊かな表現を可能にする知識及び技能の習得のための指導方法の工夫
  - ・感じ取ったことや考えたこと等を基に、絵や彫刻等に表現する活動
  - ・目的や機能を考え、デザインや工芸等に表現する活動

- ・発想や構想をしたこと等を基に、見通しをもち創意工夫して表現する活動
- (3) 思考力、判断力、表現力等を高める指導方法の工夫
  - ・美術作品等の見方や感じ方を深める活動
  - ・生活や社会の中の美術の働きや、美術文化についての見方や感じ方を深める活動
  - ・学習の成果が分かる評価資料の累積から、学びを深める活動

## 2 〔共通事項〕を踏まえた題材の研究

- (1) 〔共通事項〕を効果的に身に付けるための題材の工夫
  - ・〔共通事項〕を、表現及び鑑賞の各活動に適切に位置付けた題材の工夫
  - ・表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習過程の工夫
- (2) 生徒が主題をもち、主題を深めることのできる題材の工夫
  - ・経験や体験、地域の特色を生かした必要感のある題材の工夫
  - ・鑑賞活動と表現活動を相互に関連させた、制作意欲を高められる題材の工夫
- (3) 多様な表現方法を取り入れることのできる題材の工夫
  - ・ICTを効果的に取り入れた題材の工夫
  - ・複数の画材や素材を使うことのできる題材の工夫

## 3 〔共通事項〕を踏まえ、3年間を見通したカリキュラムの研究

- (1) 小中連携を踏まえた指導計画の研究
  - ・小学校図画工作科の〔共通事項〕を踏まえ、形や色彩等に対する豊かな感覚を働かせて表現及び鑑賞に取り組める題材や学習過程の工夫
  - ・美術科としての資質・能力を確実に身に付けられる指導計画の作成
- (2) 3年間のカリキュラムにおける〔共通事項〕の位置付けの研究
  - ・題材ごとの内容や時間のまとまりを見通した指導計画の工夫
  - ・発達段階に応じて身に付けるべき資質・能力を踏まえた指導計画の作成
  - ・育成したい資質・能力を明確にした評価規準の作成と、それらを適切に位置付けた指導計画の作成
- (3) 教科横断的な視点を取り入れた指導計画の研究
  - ・生徒や各学校の実態、地域性等を生かした効果的な指導方法の工夫
  - ・各内容における指導のねらいを実現することのできる題材が、系統的に身に付くように位置付けた指導計画の作成

## IV 研究方法

- 1 研究計画に基づいた実践を持ち寄って協議し、情報交換をして研究を進める。
- 2 研究の成果を日常の教育実践に生かすとともに、研究の継続と累積に努める。
- 3 中教研の組織を十分に生かす共同研究にし、会員の総意を結集した研究になるように努める。
- 4 小学校との情報交換に努め、互いに連携を深める。
- 5 実技研修会や研究会に積極的に参加するなど、教師としての資質・能力を高め、感性を磨くよう努める。

